
ダーティー・ハリ

B J

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ダーティー・ハリ

【Nコード】

N7412D

【作者名】

B J

【あらすじ】

正義も悪も関係ない一人の非情な刑事のダーティーな物語

この物語は犯罪組織、はたまた警察組織内からもその非情な手段で『ダーティー・ハリ』と恐れられた一人の刑事の物語である

今日も大犯罪都市東京に血生臭い事件が発生した

一時たりとも刑事張本に安らぎを与えてはくれない

張本はいつもの如く血に飢えた狼のようにこの事件に喰らいついた

………《戦慄の現場検証》………

P M 1 1 : 5 6

東京は雷を伴う豪雨に見舞われていた

ゴロゴロゴロゴロオオオ~~~~~・ピカッ!~~~~・ドドオオ
オオオ~~~~ンツ!!

「おおおゝ怖っ!~~~~たぐいくつになっても雷さんにやビビラされるぜえゝきしょう!~~~~ひどいですねこりやハリさん・おそらく縄張りをめぐった組同士の抗争でしょうね・ああゝああ、カジノじゅう死体の山だぜこりや・ひい、ふう、みい、よ、とくらあ、~~~~た・ま・げ・た・ぜえ~~~~総勢12人ですよハリさん・こりやまたこれを機にやったやられたの抗争劇がまた一段と激しくなるでしょうねハリさん・」

「・・・うむっ・・・」

ゴロゴロゴロゴロオオオ~~~~~・・・ピカッ！・・・・・・ドドオオ
オオオ~~~~ンッ！

雷は容赦なく闇夜を劈く・・・

「この状況・・・そしてこの激しい弾道、弾痕を見る限り恐らくチャカじゃないっすねえこりや、こりや武器はマシンガンで間違いなさそうっすねハリさん・・・」

「・・・うむっ・・・」

ゴロゴロゴロゴロオオオ~~~~~・・・ピカッ！・・・・・・ドドオオ
オオオ~~~~ンッ！

雷は容赦なく闇夜を劈く・・・

「それにしても自分はこんだけの抗争の惨劇は初めてですよ、血で血を洗うっていうやつですかね、市民が巻き添えをくわなくて本当に良かった・・・」

「・・・うむっ・・・」

ゴロゴロゴロゴロオオオ~~~~・ピカッ！……ドドオオ
オオオ~~~~ンツツ！！

雷は容赦なく闇夜を劈く・

「これで双方の犠牲者は計53名ですよ・国民の声もそうでしょうけども自分も一警官の立場からして我々警察側の責任を痛切に感じます。やっぱトップサイドの意識改革から始めないとなかなか諸問題は・ハリさん・なにやってんっすかあんだ・」

「……うむっ……」

「いやいやいや・うむっ……じゃないでしょうハリさん・あんなにやってんっすかって言ってるんっすよ・」

「……凶器だ……」

「なにが凶器ですかあんだ、死体のちんぽ引っ張り出してなにメジヤーで測ってんっすか？」

カシャッ！カシャッ！カシャッ！カシャカシャカシャカシャッ！！

「なにそのちんぽ携帯で撮ってんっすか、そしてなにそのちんぽ写メで送ってんのよ」

「・・・うむっ・・・そうだ、お前の嫁にも送ってやろう・・・」

「送るな！！って言うかなんであんた俺の嫁のアドレス知ってんだきさまああっっ！！」

「ゴロゴロゴロゴロオオオ~~~~~~~~・・ピカッ・・」

「ごまかすなああっっ！！さっきからゴロゴロゴロゴロくちで雷すんじゃないあああいつっ！！」

「雷は容赦な・・・」

「ナレーションもいらあああああーーーーんっっっ！！！！」

「凶器だよ・・・ちんぽは立派な凶器だ・・・これらの写真は直ちに鑑識に写メで送らんな・・・ムービーもちゃんと送るさ、お前の嫁にもなフツ・・・」

「なっ・・・死体から財布を抜き取るのはやめろおおおおおっ

つつ！！！！！」

「冗談じゃない来年息子の大学受験なんだぞ、きさまに私の家庭の幸せを踏みにじる権利はない・私は捨て犬を拾ってやって家に持ち帰り育ててやるだけだ、飼い主がいない金は・捨て犬だ・」

「わけの分からんことは言うなあああつつ！！カジノの金を袋に詰めるなああつつ！！金庫の金を袋に詰めるなつつつてんだよこの野郎おおおつつ！！逮捕するぞあんたあああつつ！！うわああつつ！！銃口を俺に向けるなああああつつ！！」

「お前もあり金全部出せ、受験に重なって丁度我が家も築17年目なのであちこちが老朽化で改築せんといかん、っていうか根っから俺はお金が好きなんだ、金は素敵だ・金を数える快感が俺はたまらなく好きだ・ありがとう、福沢先生・」

「なるほどな！これであんたがなんでダーティー・ハリってみんなから恐れられてるかが分かったぜ・ホントにあんたは汚いよ、悪党以上の悪党だよあんた・」

「四の五の言わんと早く財布を俺の足下に投げて着ている服を全部脱いでスッポンポンになれ！」

「なんで俺がスッポンポンにならなきゃならないんだ！？」

ドッ
ゴ
オ
オ
オ
オ
ー
ー
ー
ー
ン
ツ
ツ
ツ
！
！
！
！

[illegible]

「ノオウ・クエツスチョンだ松波・早く金出してスツポンポンになれ、お前一人の死体の報告書ぐらいどうにでも出来るんだぞ」

「ちっ・」

松波刑事は舌打ちをしながら口を尖らせたまま渋々、着ている服を一枚ずつ脱いだ

そして松波は最後の一枚のパンツを脱ぎ捨て全裸になった

「ほおう、なかなか立派な銃を持つてゐるじゃないか松波」

「銃じゃなあああああいいつつ!」

「なかなか立派な凶器を持つてゐるじゃないか松・」

「凶器でもなあああ・・・」

「凶器だあああつっ！！ちんぽは立派な凶器だっつってんだろおおっっ！！」

「そんなことはどうでもいい！さあつ、脱いだぞ張本！それで俺はどうしたらいいんだ？！」

「ここに死体を山積みしろ」

松波は張本にいわれるままカジノ中に倒れ散ってる12体の死体を息を切らせながら張本の足下に山積みした

「ようし、がんばったな松波、そしたらお前はこの山積みされた死体の山に登り、登ったらてっぺんで右手で自分のちんぽを握り左手でこの銃を握る」

そう張本は言うとは先ほど松波から押収した銃からすべての玉を抜き取り松波に投げ渡した

松波は張本に言われるまま右手に己のちんぽ、そしてもう片方の左手に玉の入ってない銃を握りしめた

「それでこの俺にどうしろというんだ!」

「せんずりしろ！そしてザーメンが飛び散る瞬間、白目をむいて二丁拳銃ドウドオオオオooooooooンッッ……！」と叫びながらそこから飛び降りろおおっ！！」

「そんなクソしょうもないことが出来るかああああっつっっ！張本！！きさまは狂ってる！！こんなことを俺に・・・」

**ドッ
ゴォ
オォ
オォ
オォ
オォ
オーーーーーー
ンツツツ
!!!!!!**

張本が撃ちはなつた弾丸は松波の左耳を撃ち抜いた

「分かってないな・・松波・・お前は分かってない・・全然分かってない」

張本は溜息混じりで松波に吐き捨てるように嘆き気味で言った

「松波よ・・死んだらお前の可能性は0になるんだぞ？死ななかつたらお前は再び暖かい家庭に戻ることが出来、再び浮気相手の捜査

第二課の島田玲奈巡査のまんこをまたあの時のように激しく！ねちつこく！ケモノのようにしゃぶることが出来るんだぞ？！あああつ！？松、いやさマツチャミイツ！！」

「あ！なんで浮気のことまで・・・く・・・くっそおおおおお・・・」
「・・・わかった・・・言われた通りにするよ・・・」

松波は悟った・・・なるほど、言われてみれば張本の言う通りだ・・・死んだら玲奈のあのとろけるようなさも、本マグロの大トロみたいなまんこをしゃぶることは二度と出来ないんだ・・・お・・・俺はしゃぶりたい・・・いっぱいいっぱい玲奈のまんこを擦り切れるほどしゃぶりたい！！だから張本の言われるままにしたがおうと・・・そして松波はせんずりをはじめのだった

シコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシ
シシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシ
コスコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシ
コココシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシコシ

ようやく松波に津波のようなオルガスムスの大きな波が打ち寄せてきた

「おお・おおお・おお・・・お・・・はあ・・・はあ・
は・・張本おお・・な・・なんて言つて飛び降りるんだっ
あああ・・・ああ・・・おお・・」

「二丁拳銃ドウンドオオオオオーンッッ……! つてんだろが!! 何回も言わすんじゃない松波いいっつ……!」

[illegible]

「今だ！飛び降りろ松波いいつつ！」

「二丁おお・拳銃う・ドゥン・ドゥ・ドオオオオ・ハア
オアウオオオオーッッッ！！」

[illegible]

断腸の思いとエクスタシーの極みをシンク口させた松波のザーメンは死体の山の頂上から

放物線を描き消火栓ポンプの鉄砲水の如く辺り一面に解き放たれた

[illegible]

張本は松波のほとばしる熱い、そして臭い氾濫した土石流の鉄砲水のようなザーメンを頭からひっかぶりながらこの一瞬のシャッターチャンスを見逃さなかった

張本の携帯は松波の一挙手一投足をイチローの精密機械のようなバツティング同様の確に捉えて放さなかったのだ

「松波、お前が今から依願退職をしその退職金を俺の口座に全額振り込まないとお前のこの行動は本署、並びに警視庁、全テレビ局、お前の家族、親族、全知人のメールボックスに配信する！またお前が俺に対し下らん行動をとった場合も同じように配信されるよう手は打ってある！松波！お前はアウトだ！」

「張本おおおおお~~~~~つつつ……きつさむあああああ
ああ~~~~~死ねえええええ~~~~~つつ！」

！
」

「お前が死ねええっ！・・・悪いな松波、俺は今までこうやって資産を増やし運用して来たんだ、都内に一戸建ても持った、ささやかながらクルーザーも買った、株もしてる、ギャンブルもたしなむ、高級クラブで高い酒も飲むしいい女も抱く・・・俺は好きなんだよ！お金が！！俺は組む奴組む奴から退職金をむしり取ってきた、勿論これからもむしり取っていくつもりだ、いやいくべきだ、いやいかねばならないだってそうだろう！？ああっ！？松波よおおっ！・・・」

ダーティー・ハリ・・・
なぜにダーティー・ハリ・・・
ゆえにダーティーハリ・・・

ダーティー・ハリにとって正義も悪も関係ない

ダーティー・ハリにとって言えることはただ一つ

ダーティー・ハリはお金が好き sadece

ダーティー・ハリはもの凄くお金が好き sadece

だからダーティー・ハりは今日も汚れる

もちろんダーティー・ハりは明日も汚れる

そしてダーティー・ハりは汚れ続ける・

「君が今度配属された新しい俺の相方の三島君か！よろしく三島君！張本です！！」

==END==

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7412d/>

ダーティ・ハリ

2010年10月28日06時03分発行